

核兵器なき世界へ

長崎の使命、青年の役割

デイビッド・クリーガー

核時代平和財団会長

核兵器のない世界の実現に向け、国内外の非政府組織（NGO）関係者が話し合う国際会議「核兵器廃絶―地球市民集会ナガサキ」が二〇一三年一月上旬、長崎市で開催された。同会議へ出席のため

長崎を訪れた核時代平和財団のデイビッド・クリーガー会長は、創価学会長崎青年平和委員会の招聘（しょうぼう）に応え、「核兵器なき世界へ―長崎の使命、青年の役割」をテーマに講演した。

私は創価学会インタナショナル（SGI）の青年部を大いに信頼しています。それは、これまでの活

平和活動に必要な「思いやり、献身、勇気」

デイビッド・クリーガー

1942年生まれ。核時代平和財団会長。ハワイ大学、サンフランシスコ州立大学助教授などを務めながら、サンタバーバラ市立裁判所の臨時判事、裁定人も務めた。国際法アメリカ協会、アメリカ弁護士協会の会員。戦争と平和財団、地球的責任への技術者と科学者の国際的ネットワーク、国際犯罪裁判所設立財団、ホロコーストと大量虐殺研究所の国際委員会などのメンバーでもある。これまでに「平和のためのハンガリー・エンジニアの会」ブロンズメダル（95年）「戦争と平和財団」平和賞（96年）などを受賞。著書に『生き残りへのカウントダウン』『偶発的核戦争の防止』『地球市民』『核時代のためのマグナカルタ』『アボリション2000へのカウントダウン』『神の涙』など多数。共著に、池田大作SGI会長との対談集『希望の選択』がある。

動を見てきたからです。一五年前、核兵器廃絶を求める「アボリション2000」の署名運動を行った時、SGI青年部は当初目標を大きく上回る一三〇〇万人の署名を三カ月という短期間で集めたのです。その署名を受け取るため一九九八年に日本を訪問した時、沖縄の地で池田大作SGI会長とお会いし、希望について話し合うことができました。その場で対談集を編むことを決定しました（『第三文明』連載「希望の選択」へ一九九九年七月号〜二〇〇〇年九月号掲載）。その後、対談集『希望の選択』として出版されました。

ここで池田SGI会長と私が語り合った平和、核兵器、希望に関する考え方をいくつか紹介させていただきます。

▽平和は核時代において必須のもの。核兵器は文明を破壊し、すべての生命を終焉（しゅうえん）させる可能性を持ちます。



は戸田城聖・創価学会第二代会長が一九五七年に表明した「原水爆禁止宣言」に基づくものです。核兵器の使用は大量殺戮（さつりく）で、違法であり道徳に反します。核兵器は人類の未来を脅かします。

▽平和への取り組みには、強さが必要で、非暴力の平和は、消極的な受け身のものではありません。▽平和と核兵器廃絶を成し遂げるためには、青年がリードしなければなりません。今日の青年こそが未来です。青年が平和と核兵器のない未来を望むならば、立ち上がり、声を上げ、紛争の平和的解決や核兵器の廃絶を要求しなければなりません。

▽核兵器の廃絶など大きな目標を達成するには、希望を選択すべき。私たちは、希望も絶望も選べます。希望は行動を引き起こし、行動は希望をより強固にします。絶望は、何もしない怠惰（たいた）を引き起こします。それゆえに私たちは、すべての人々が、とくに青年が希望を選択し、希望を基に行動するよう励ま

すのです。私たちの行動は、三つの「C」で導き出されると主張したい。それは、「compassion」＝思いやり、「commitment」＝献身、「courage」＝勇気の三つのCです。▽決して諦（あきら）めてはいけません。あらゆる困難な目標を達成するには忍耐が必要です。平和や核兵器廃絶、その他の不可能とさえ思えることでも、目標の達成を諦めてはいけません。

青年は被爆者の声を世界に発せよ！

核攻撃が実際にどのようなものなのかを明確に語り、人類の心に届けられるのは広島、長崎の被爆者以外にはないでしょう。だからこそ被爆者の声や訴えがとても重要なのです。

被爆者は痛みとともに生き続け、警告の声を響かせてきました。その方たちも高齢化し人数が減っていく今だからこそ、世界に呼びかけるメッセージは貴重であり、緊

急性を帯びています。青年は被爆者に手をさしのべ、被爆者から学び、そのメッセージを世界に届ける助けとなるべきなのです。

核兵器廃絶の必要性を訴える被爆者の声を、みなさん自身のメッセージにして、世界に発していくべきです。私は、みなさんがその行動を既に起こしていることを知っていますので、とても誇りに思っています。

核兵器の危機を乗り越える行動を起す時がやってきています。核兵器廃絶の運動に対し、核保有国は従う意思を示していません。よって人類は、核時代を完全に乗り越えるた



創価学会沖縄研修道場でクリーガー会長と歓談する池田SGI会長（1998年、沖縄） ©Seikyo Shimbun

識」「平和を享受する普遍的な人権」「人間としての普遍的な責任」。この四つです。この価値と照らし合わせれば、核兵器は明らかに矛盾します。究極の大量殺戮としての爆弾は、生命の尊厳に反し、保有国と非保有国とを分断させています。核兵器は人権と生命への脅迫であり、核兵器を保有し使用するという威嚇は、人類が未来の世代に対して負っている責任を侵害しています。

未来は、より良い明日を願う人のも

核兵器をゼロにすべき理由は人類の数だけ存在します。核開発競争の結果、一九八六年には世界で七万発の核弾頭が存在していました。現在は一万七〇〇〇発にまで減少していますが、一発の核兵器が一つの都市を破壊し、一〇〇発で数十億人を死に至らしめます。核の危機を考えると、現在の核兵器の数は減少したとはいえ、いま

だ多すぎるのです。

道理に従うならば、核兵器の数はゼロにするしかありません。私たちが緊急に成し遂げるべきなのは、今いるところで核兵器ゼロのための活動です。核保有国、核依存国、核から解放されている国の市民が連携し、変化を起こす絆を深めていくことです。現状維持は許されません。核兵器ゼロへ向かう変化のスピードを増すことが重要です。

被爆者の思いを引き継いでいくのは、青年でなければなりません。ではどのようにするのが良いのでしょうか。

私は、みなさんが進むべき方向性を示すことはできませんが、それを基にみなさんが、未開の新たな道を切り開いていかなければなりません。その道は、核兵器は絶対悪であり、核兵器保有の真意は戦争への意思であるとの信念に基づいて切り開かなければなりません。

未来は、より良い明日を追い求

団結することです。思いやり、献身、勇気を持って協働する個人の行動を貫けば、地球の安全を守ることがができます。

ここで新たに二つのCを加えたい。それは「creativity」創造性」と「cooperation」協力」です。

停滞の眠りから覚め、自分の可能性を開き、高潔な人間を目指すことが重要です。私たちに、被爆者とその支援をする長崎、広島の子のリーダーシップが必要で、そして、核兵器が廃絶された時は、新たなCとして「celebration」お祝い」を加えましょう。その時こそ人類の未来に届ける最良の贈り物を祝うことができるのです。最後に核兵器廃絶のためになぜ活動をすべきかの一二の理由を列挙したい。

- 私たちは、世界を変えることができます。
- 私たちは、人類のための大きな前進の一步を踏み出すことができます。
- 私たちは、他の人々と共に地球

を大切に管理することを示すことができます。

○私たちは、最も危険な科学技術でさえ抑制することができます。

○私たちは、もっと立派な共有する未来を築く手助けができる。

○私たちは、核兵器によって引き起こされる全面殺戮の脅威を終わらせることができます。

○私たちは、共通の利益をもたらす国際法を支持することができます。

○私たちは、人間の慣習ともいべき戦争を起こさない方向へ導くことができます。

○私たちは、人類に突き付けられた最大の課題に立ち向かうことができます。

○私たちは、思いやりを行動に、そして行動を思いやりに込めることができます。

○私たちは、自分が愛し大切にしているあらゆるものを守る手助けをすることができます。

○私たちは、核兵器廃絶を達成し未来の人たちへ安全な世界を残すことができます。



海外からの参加者と語り合うクリーガー会長

める人のためにある、との確信を持つて活動を進めていただきたいと思えます。

青年の力は核弾頭よりも強い

私は池田SGI会長の「二〇一五年に広島、長崎で核廃絶サミツ

トにしていくべきです。

世界の青年のエネルギーと情熱に向き合うならば、核保有国は、その正当性をあいまのままに主張し続けることはできません。青年の力は核弾頭よりも強力なのです。

人類の未来のために最も望まれているのは、核兵器廃絶のために

あなたの選択

残酷な戦争に対して

あなたは声を上げたことが

ありますか

人間は選択する力を持っています

みなさんは、その選択をしたことが

ありますか

今まではそうではなかったかもしれないでも、これからはそうであって欲しい

私たちは共に世界を変えることができる

あなたはその選択をしたことがありますか

講演終了後、クリーガー会長が聴衆に贈った詩